

## トランスボックスラッピングで荻窪の魅力を紹介

16日、荻窪駅の南口駅前通り（都市計画道路補助131号線）のトランスボックス11基に、荻窪の歴史的・文化的な資源を紹介するラッピングを施しました。紹介されているのは、国指定史跡の荻外荘（てきがいそう）や大田黒公園などの区立施設や荻窪白山神社、天沼八幡神社などとその案内図になります。

トランスボックスは、東京電力が管理している無電中化に伴い設置が必要となる「配電用地上機器」です。そのトランスボックスは、金属製で飾りっ気がなく、ともすると落書きの標的になり、まちの美観を損ねています。区が、平成27年2月に、高円寺駅周辺に設置されている区道上の60基のトランスボックスを調査した際も、18基への落書きが確認されました。

そこで、こうした落書きの防止とまちの美観向上のため、夏のイベントとして有名な高円寺阿波おどりなどをデザインしたラッピングをしたところ落書きもなくなり、まちの魅力の向上と発信の場となりました。この実績を踏まえ、荻窪のまちづくりにも活用することとしました。荻窪駅周辺には、歴史的にも文化的にも、内外に自慢できる資源が数多くあり、その絞込みと紹介方法について、昨年秋から荻窪駅周辺の地域住民や区立施設の利用者などに投票を呼びかけてきました。その結果、かるたをモチーフにしたデザインになりました。また、紹介する資源も投票した方がこれとは考える8カ所になりました。

16日、JR中央線に沿った道路に設置されている11基のトランスボックスにラッピングが施されていきました。荻外荘は、建物のイラストと「につぼんの史跡となるは荻外荘」という読み句が表示されています。また、国登録有形文化財の西郊ロッキングには、「ロッキング昭和モダンを見上げたり」と表示されています。さらに、各資源の場所を示す案内図も3カ所のトランスボックスに施されました。区担当者は、「歴史の舞台となった荻外荘や都会のオアシスのような大田黒公園など、いつも変わらぬ落ち着いたまちというのが荻窪の魅力です。ぜひ多くの方に知ってもらいたいです。」と話していました。

